

# ACANTHUS NEWS



「アカンサス」(和名「ハアザミ」)は、南ヨーロッパ原産で葉を様式化した文様はギリシャ建築などで有名。金沢大学の校章も、このアカンサスの葉を図案化したもの。

平成12年 **2000.11**  
月刊アカンサスニュース  
金沢大学広報紙 第51号

## 小野文部事務次官視察

10月6日、小野元之文部事務次官が本学を訪れ、第II期総合移転事業を中心に視察した。  
〔3頁に関連記事〕



写真左から、理学部屋上で説明をする内海敏雄施設部長と説明を受ける小野文部事務次官、林勇二郎学長、水上修一事務局長。

## 10月は外国人留学生の 「新 学 期」

海外の高等教育機関では、10月新学期が多い。そのため、日本への留学も10月からになる。

金沢大学も10月に、多くの外国人留学生を受入れた。

写真は、書道の授業。  
〔6頁に関連記事〕



巻頭言

# 学問のオリンピック



馬 淵 宏  
(医学部長)

シドニーオリンピックは数々の感動を残して閉幕いたしました。オリンピックに出場し、世界の頂点に立つには、まず地方大会から登り詰め、最終的には日本代表に選ばれなければなりません。同じスポーツでも登山には国内予選など全くなく、いきなりヒマラヤ登頂などの世界的な快挙が達成されるかもしれません。世界的な研究業績を数多く発表することが金沢大学の念願ですが、研究は“オリンピック的”でしょうか“登山的”でしょうか？研究は後者であると言えます。研究発表の“舞台”は学会と専門学術雑誌ですが、いきなり世界の檜舞台に登場することも可能です。オリンピックのように4年に1回などという制約もなく、年がら年中論文は受理されますし、年齢・性別、人種・国境による差別や制限は全くなく、学歴・学閥にも関係ないフェアな世界と言えます。

たまに投稿した論文のアイデアが盗まれたとか、不当に雑誌に受理されなかったなどということを目にしますが、私にはそのような経験はありません。国内の学会で一切発表しなくても、いきなり世界のトップクラスの専門誌に受理されることもあります。このように、世界的な研究を発信するには、地方予選、国内予選は省略して、いきなり世界大会に出場すればよいのです。「オリンピックの国内選考に漏れた」などという不幸ありません。いきなり欧米の専門誌に論文を発表すればよいのです。勿論、登頂に成功するためには日頃のトレーニング、最新の装備、健康管理、資金集めなどが必要ですが、研究にも地道なデータ収集や実験が必要です。しかし、決して終生地味なものではなく、やがて素晴らしい成果が出れば、世界の人々から賞賛されるという夢があります。金沢大学からオリンピック選手を輩出するのは非常に難しいことですが、“学問のオリンピック”に出場するのははるかにやさしいのです。誰でも何時でも参加できる“学問のオリンピック”に金沢大学から多数の参加者が出ることを期待いたします。

(本学出身の古選手がシドニーオリンピックに出場したことは「アカンサスニュース」10月号で紹介されています。)

## 附属病院へ アルバニア国公使が来訪



アルバニア共和国大使館のトニンベチ公使が10月2日、附属病院に来院し、河崎一夫病院長に謝辞を述べた。

これは、アルバニアで治療を受けていたユーゴスラビア・コソボ自治州のネジールちゃん(3歳)が、昨年7月にユーゴ空爆で治療が不可能になり、日本アルバニア協会などの援助で来日し、附属病院の小児科病棟に入院したことを受けてのもの。目に腫瘍ができる難病も、レーザー光線での治療でほぼ完治し、同年11月に退院し帰国した。この入院時には大きな反響があり、多くのカンパが寄せられ、この謝礼のためトニンベチ公使が来院したもので、河崎病院長、小林健一、富田勝郎両病院長補佐、小泉晶一小児科長、斎藤信一郎病院事務部長などと歓談した。

目次

小野文部事務次官視察……………	1	20年間続いている「理学部談話会」……………	8
10月は外国人留学生の「新学期」……………	1	「独立行政法人会計基準」講演会開催……………	8
学問のオリンピック……………	2	倫理法学習会開催……………	8
附属病院へアルバニア国公使が来訪……………	2	シドニー・パラリンピックに山下大樹選手が出場……………	9
小野文部事務次官が本学を視察……………	3	世古真知子さん 富山国体入賞……………	9
第58回東海・北陸地区国立大学長会議開催……………	3	金沢大学の当番で就職指導担当職員研修会……………	9
知的所有権セミナー開催……………	4	医療事務の専門化に備える……………	9
教養教育運営委員会研究調査部講演会「21世紀のバイオサイエンス」……………	4	「東海・北陸地区国立学校等係長研修」開催……………	9
「金沢大学紹介」「研究者総覧」CD-ROM作成……………	4	学長・副学長室から……………	10
平成12年度秋季全国国立大学教育学部長会議を開催……………	5	「金沢大学サテライト・プラザ」……………	11
第48回六大学教養教育代表者会議開催……………	5	「金沢大学サテライトプラザ」工学部と連携……………	11
外国語教育研究センター 講演会開催……………	5	10月のできごと……………	12
57人の新入学留学生を迎えて合同開講式……………	6	キャンパス点描……………	12
がん研究所内田真紀看護婦、ラオスの体験を語る……………	7	編集後記……………	12
金沢大学資料館特別展……………	7		

## 10月のビッグニュース

### 小野文部事務次官視察 第Ⅱ期移転工事現場→資料館→図書館

小野元之文部事務次官が10月6日、本学を視察した。学長室で、林勇二郎学長・水上修一事務局長から、本学の現状と課題及び改革並びに総合移転事業、附属病院再開発事業等について説明を受けた後、内海敏雄施設部長らの案内で基幹工事が行われている角間地区の第Ⅱ期総合移転事業の現場を視察した。〔1頁に写真〕



資料館受付で記帳



資料館内で



説明を受ける小野文部事務次官



説明をする学長，副学長，事務局長及び事務局4部長

### 第58回東海・北陸地区 国立大学長会議開催

10月30日、31日の2日間、金沢大学が当番で東海・北陸地区国立大学長会議が行われた。林勇二郎学長のあいさつに続き、清水潔文部省大臣官房審議官（高等教育局担当）から国立大学を取り巻く現状について説明があった。

会議では、国立

大学の独立行政法人化のその後について、大学の再編・統合等の在り方について協議した。



前列左から矢谷学長（三重大）、佐藤学長（静岡大）、松尾学長（名古屋大）、寺尾学長（浜松医科大）、清水審議官（文部省）、林学長（金沢大）、金城学長（岐阜大）、須藤学長（福井医科大）、児嶋学長（福井大）、後列左から蠟山学長（高岡短大）、仲井学長（愛知教育大）、時澤学長（富山大）、和田副学長（金沢大）、岡島学長（名古屋工業大）、花岡副学長（金沢大）、後藤学長（豊橋技術科学大）、畑副学長（金沢大）、高久学長（富山医科薬科大）、發地副学長（信州大）、水上事務局長（金沢大）の各出席者

## 10月のニュース

### 知的所有権セミナー開催

10月16日、知的所有権セミナー「大学等の知的資源の有効活用について～技術移転の多様な試み～」(文部省・金沢大学主催)が工学部秀峯会館で開催され、金沢大学、北陸先端科学技術大学院大学、富山大学等の大学や企業の関係者等144人が参加した。

文部省学術国際局研究助成課研究協力室長磯谷桂介氏のあいさつに続き、弁理士会、科学技術振興事業団及び石川県産業創出支援機構の各担当者から、特許出願に係る支援事業や大学から民間企業等への技術移転を促進するための施策が説明された。

後半は、各大学における技術移転の取組状況の発表、研究成果の特許化をめぐる諸問題及び民間への技術移転の促進策について活発な意見交換が行われた。



### 教養教育運営委員会研究調査部講演会 「21世紀のバイオサイエンス」

10月21日、教養教育運営委員会研究調査部主催の本年度第2回公開講演会が、医学部十全講堂で開催された。今回は、元京都大学総長で科学技術会議議員の井村裕夫氏を講師に招き、「21世紀のバイオサイエンス」と題して行われた。井村氏は、基礎医学の目標と展望について、ほぼ全容が解明されたヒトゲノム解析から感染症、複雑性疾患(生活習慣病)の新たな予防、診断、治療法が開けるとし、これからは個人にあわせた医療が確立されていくと話した。

教職員、学生を含め約80人が参加し、講演後は、熱心な意見交換が行われた。



### 「金沢大学紹介」「研究者総覧」CD-ROM作成

#### パンフレット「データで見る金沢大学」も刷新

「金沢大学紹介」CD-ROMは、キャンパス2050検討グループが先に作成した「金沢大学過去現在未来」の姉妹編として、受験生を対象にしたもので、報道機関にも公開した。すでに県外からもたくさんの申し込みがあり、関心が高く、話題をよんでいる。

「金沢大学研究者総覧」CD-ROMも完成し、関係機関等に配布した。また、リニューアルした「データで見る金沢大学」のパンフレットも好評で、広く活用されている。



文教記者クラブ(石川県庁内)でCD-ROMの記者発表をする宮下孝晴教授(左)、上口大介企画係長(その右)

## 10月のニュース

### 平成12年度秋季全国国立大学教育学部長会議を開催



19大学の教育学部長が出席して開かれた平成12年度秋季全国国立大学教育学部長会議

10月19日、「平成12年度秋季全国国立大学教育学部長会議」が、金沢大学教育学部の当番で開催され構成大学21大学のうち、19大学の学部長が一堂に会し、活発な議論が展開された。

冒頭、「国立の教員養成系大学・学部の在り方に関する懇談会」の委員でもある愛媛大学金藤教育学部長から、同懇談会の審議状況について報告があり、引き続き各大学から、教員養成学部の再編問題、第10次定員削減への対応状況などについて報告があった。これを受けて、今後の対応について協議し意見等を整理の上、関係機関へ反映していくこととなった。

次いで、30人(以下)学級の実現について、意見交換と協議の結果、各大学において実現に向けて努力することが了承され、また、少人数学級の早期実現を要望していくこととした。

### 第48回六大学教養教育代表者会議開催

第48回六大学教養教育代表者会議が、10月12日、13日の両日、金沢大学を当番校として開催された。

この会議は、千葉大学、新潟大学、岡山大学、長崎大学、熊本大学及び金沢大学の六大学で構成されており、教養教育に係る諸問題について協議し情報を交換することを目的としている。

今回の協議事項は、①大学教育開発研究センターの役割②教養教育の推進体制③履修科目登録上限設定の取り組み④学

生相談体制の4項目で、会議では各大学の状況紹介の後、活発な意見交換が行われた。



### 外国語教育研究センター 講演会開催

外国語教育研究センターでは、10月3日、東京大学教授の佐藤良明氏を迎え、「東京大学における英語教育～ビデオ教材を中心にして～」と題した講演会を開催した。

東京大学の事例を基に、テキスト及びビデオの編纂作業や授業の進め方、学生、教員のこの方法に対する反応などについて講演した。

学生を含めた約40人の参加者から授業改革の講演内容等の質問が多くが多く出され、活発な意見交換が行われた。



## 教育・いま

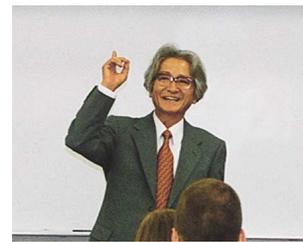
# 57人の新入学留学生を迎えて合同開講式

10月11日、留学生センターでは、畑安次副学長、大橋信喜美留学生センター長はじめ留学生センター及び学生部留学生課教職員が出席し、平成12年10月に入学した57人の外国人留学生の合同開講式を行った。

なお、前日の10月10日午後、外国人留学生生活指導オリエンテーションが実施され、17時からWelcome Partyが行われた。



日本語・日本文化研修生の「書道」の作品（1頁に授業風景掲載）



「ようこそ金沢大学へ。金沢は緑の豊かな古い城下町で、日本で勉強をするにも生活するにも環境に恵まれた非常に良い町です。」と、歓迎のあいさつをする畑安次副学長



カリキュラムについての相談



授業を参観する大橋センター長



合同開講式

大橋信喜美留学生センター長（理学部教授）は、合同開講式で「この金沢大学で、20世紀の終わりを送り、21世紀の初めを迎える、本学の記念すべき留学生である皆さん方には、様々な体験を重ね、人々との出会いを大切に、有意義な留学生生活を送っていただきたい。」とあいさつをした。

### 10月入学の留学生

日本語・日本文化研修留学生	19人
金沢大学短期プログラム留学生	26人
日本語研修コース 研究留学生（金沢大学交流協定校からの受入れ4人を含む） 日韓共同理工系学部留学生	9人 3人
ほかに、各学部・研究科に入学した留学生	31人
10月現在 金沢大学在籍の留学生総数	370人

## トピックス

がん研究所内田真紀看護婦、  
ラオスの体験を語る

平成10年7月から2年間、国際協力事業団（JICA）の青年協力隊員としてラオスの看護学校で活動したがん研究所の内田真紀看護婦が、このほど帰国した。10月30日、内田看護婦にインタビューを行った。

## 内田真紀さんにインタビュー

## — ラオスに行こうと思った理由は？

看護婦になって7年間たったので、看護の技術をためすのと、海外で働いてみたいことで、国際協力事業団（JICA）の青年海外協力隊員に応募しまして、幸い採用になりラオスに2年間行ってまいりました。

ラオスの学校では教科書がありません。図書室には本はありますが。看護の専門学校でも日本から持っていった本では、程度が高くて使えませんでした。

## — ラオスで日本はどのように思われていますか？

日本からラオスへの援助は、インフラの整備や技術指導が行われています。日本がトップですから、日本人＝金持ちのイメージが強いですね。また、テレビなどで、日本のコマーシャルがよく入ります。

## — みなさんへのメッセージをお願いします。

私は2年間行かせていただきましたが、職場に迷惑をかけたのではないかと。チャンスのある人は海外に行ければいいですが、条件が整わない人でも身近なところから援助できれば良いと思います。アンテナを高くしておれば、いろいろな情報が入ってきますから。そして自分で考えて行動するということにしたいですね。

ラオスで一緒に働いていた人が、私が推薦してJICAの制度で香川県の看護学校で研修をしています。機会があれば、一度金沢をご案内したいと思っています。

（質問は、企画広報室員が行いました。）

なお、内田看護婦は10月3日開催の本学の「自己啓発講演会」で、ラオスの気候、歴史、生活などを紹介した後、医療・看護の実態や看護教育活動における苦労話を紹介した。この中で内田看護婦は、ラオスにおいては、“床ずれ対策”などの業務が敬遠されがちなこと、教科書がなく、看護の専門用語がラオス語では言い表せないことなどから、ラオ



本学講演会で

ス語の教科書を自ら作って与えたことや、ラオスの風習に則ったパーティーなどを通じて交流の輪を広げていったことなどを語った。

パーシー（「健康・家内安全」などを  
祈る儀式）のかざりつけでお別れの会

ラオスでの授業

## 金沢大学資料館特別展

10月10日から10月20日まで、金沢大学資料館で、「小泉八雲と教え子の四高教授たち—染村絢子コレクションと附属図書館蔵書による—」と題して書籍展が開催された。

期間中、学外者140人を含む約260人が訪れた。

17日に染村絢子氏の講演会が開かれた。



## トピックス

## 20年間続いている「理学部談話会」

理学部では、昭和56年（1981年）10月から、教職員、学生及び市民が自由に参加できる「理学部談話会」を行っており、平成12年9月で74回目を迎えた。今回のテーマは「尾小屋で測る低レベル放射能の世界」で、石川県で20種類もの新しい人工の自然界放射能の発見を行なったこと、JOC臨界事故での測定に大きな役割を果たしたことなどを、低レベル放射能実験施設の小村和久教授が講演した（写真）。



また、物理学科の出淵卓教官も「コンピュータで探る場の量子論」の講演を行なった。

以下、平成12年度の講演予定。（官職名略）

- 10月20日(金) 藤本坦孝（数学科）「極小曲面について」、  
林 宣仁（化学科）「金属クラスターの化学」
- 11月17日(金) 小林 治（計算科学科）「正規閉曲線とガウスコードについて」、  
鎌田直人（生物学科）「ナラ類衰退のメカニズムを探る」
- 平成13年
- 1月19日(金) 松本宏一（物理学科）「超流体の作り方」、  
遠藤一央（化学科）「計算化学と分析—MO計算による理論スペクトルー」
- 2月16日(金) 森下昌紀（数学科）「素数たちと絡み目」、  
平松良浩（地球学科）「野島断層注水実験について」

## 「独立行政法人会計基準」講演会開催

10月12日、事務局で、監査法人太田昭和センチュリーから講師を招き「独立行政法人会計基準」のテーマで講演会を行った。

開会にあたり、水上修一事務局長が挨拶をし、その後、公認会計士の増田正志氏の講義が行われた。

「独立行政法人制度の概要について」は通則法のポイントを中心に、「独立行政法人会計基準の概要について」は企業会計原則との関係から、「帳簿組織とディスクロージャーの体系について」は企業会計・学校会計との比較から、「独立行政法人会計基準の特徴について」は表を用いて、分かりやすい講義が行われた。

これには、北陸先端科学技術大学院大学の職員21人を含めた約140人が参加し、小林和久経理部長の挨拶で締めくくった。



## 倫理法学習会開催

10月4日事務局大会議室で、契約事務担当職員を中心に約60人が参加して公務員倫理と国家公務員倫理法についての学習会が実施された。

これは、公務員倫理の概要と国家公務員倫理法の趣旨を学習し、国家公務員としての信用を失墜することのない職場環境を築くことを目的とするもので、事例研究などを通して問題点の指摘もされた。

学習会風景



上出義明契約室長

講義をする森口武雄人事課長

## トピックス

### シドニー・パラリンピックに 山下大樹選手が出場 ～惜しくも決勝進出ならず～

10月22日、シドニー・パラリンピックに教育学部附属養護学校OBの山下大樹選手(写真)が陸上400m準決勝に出場した。自らが持つ日本新記録に0.2秒及ばず決勝進出を果たすことができなかった。



父の健一さんは、「いつもの金沢ロードレースや元旦耐寒継走と違って、オリンピックスタジアムの観衆の多さに圧倒され、いつもの力を出せなかったのではないかと。また努力して4年後のアテネを目指してほしい」と話した。

### 世古真知子さん(金沢大学出身、総務部職員) 富山国体入賞

金沢大学学生であった昨年の国民体育大会において、成人女子チームライフル立射で日本タイ記録で優勝した世古真知子さん(総務部勤務)は、富山県で開催された本年の国体で、同



選手のみなさんと(富山県福光町にて)

種目7位に入賞した。



国体出発前に吉田真言総務部長から激励される世古さん。

### 金沢大学の当番で 就職指導担当職員研修会

第1回「東海・北陸地区国立大学就職指導担当職員研修会」が9月28日から29日までの2日間、金沢大学を当番校として開催され、15大学・9高専から35人が参加した。

研修では、文部省学生課の齋藤就職指導専門官による「国立大学における就職指導に関わる諸問題」と題する講演(写

真)のほか、3人の講師による「採用活動とインターネット」、「私立大学における就職支援の現状と課題」、「女子学生の就職問題についてー男女雇用機会均等法ー」の講演があり、就職指導・支援に関わる諸課題等について理解を深めた。

また、2班に分かれて班別討議も行われた。



### 医療事務の専門化に備える

10月16日からの5日間、文部省主催、金沢大学医学部附属病院を当番校とし中部地区国立大学病院医療保険事務研修会が本学で開催された。

これは、医療保険制度の改正・見直しによる診療報酬請求事務の高度化・複雑化への対応と事務職員の資質向上をはかるため実施されたもの。



金沢大学医学部記念館にて

### 「東海・北陸地区国立学校等係長研修」開催



業務の改善について討議した演習

平成12年度東海・北陸地区国立学校等係長研修が、文部省と金沢大学の共催で10月24日から27日まで金沢で開催され、28機関49人が参加した。

研修では、講義のほか係長のリーダーシップや業務改善について討議する演習、地域を理解する見学会も行われ、意義のある研修となった。

## 学長・副学長室から

### 「男女共同参画社会における男の立場」 で学長あいさつ



10月16日、「金沢大学ジェンダー・セミナーの会」（代表：文学部中野節子教官）第2回目の事業で、林学長があいさつをした。林学長は、人類の歴史の中での女の地位、そして、現在の女と男の役割について述べた。

このセミナーは、10月5日から行われており、12月14日まで5回開催される。



### 能登臨海実験所の視察

10月24日、林学長、花岡副学長が樋渡保秋理学部長の案内で能登臨海実験所を視察した。

現地に到着後、早速、笹山雄一所長から実験所における教育研究の概要や施設設備について説明を受け、実験所の将来計画などについて意見交換を行った。



その後、学長・副学長は建物内の説明を受け、実験所所有の「あおさぎ」に乗船して九十九湾内を巡視した。

### 総務部勉強会で和田副学長講演

10月19日午後5時から行われた総務部勉強会で、和田副学長は「教官と事務の二人三脚」のテーマで講演した。ここで和田副学長は、教官、事務、学生の三者が支え合うことの必要性、その中で事務の果たす役割を強調した。

総務部の勉強会は、平成12年度になって今回で5回目。



### 教育学部附属養護学校を視察

林学長は10月17日、校舎の全面改修のため、プレハブの仮校舎で授業が行われている附属養護学校を視察した。



右から杉本幹博教育学部長、水上事務局長、林学長、斉藤和夫養護学校長

### 本学へのお客さま



左から黄副教授、土屋文学部長、孫院長、花岡副学長、顧副院長、中島法学部長（学長室で）

10月10日、中国同済大学文法学院長の孫其明教授、副院長の顧鈺民教授及び黄金衛教授が来学し、花岡副学長など本学関係者と意見交換をした。その後、角間キャンパスを見学した。

# サテライト・プラザ

## 「金沢大学サテライト・プラザ」

第4回 10月7日(土)

石川県社会教育センターの会場の都合で、ミ

ニ講演は行われなかった。午前10時の開室直後から、高校生たちが来室し、文学部、理学部の学習やカリキュラムについての相談があった(写真)。三重県津市から母娘が訪れ、医学部保健学科について質問があった。

また、社会人で仕事を続けたままで経済学研究科の学修が可能かどうかや、子女の学生寮入寮などの照会もあった。

来室者：15人



第5回 10月21日(土)

講師 宮島昌克  
(工学部教授)

演題 「島根県北部の地震災害と北陸の地震防災」

当初、伊豆諸島地震災害の事例を予定していたが、その後起きた島根県北部地震において阪神淡路大震災の教訓がどのように生かされたかを多くの写真で検証した。

また、金沢市を中心とした地層と地震についても言及した。地方自治体の防災関係者、建築関係者、市民など多数聴講した。

来室者：63人



写真部の学生が撮影

## 「金沢大学サテライトプラザ」工学部と連携 中学生の学習を援助

9月に開設した「サテライトプラザ」に、金沢市内の公立中学校の生徒から「総合的な学習」についての相談があり、今回の工学部研究室訪問が実現した。

10月11日午前、紫錦台中学校の3年生6人が模型飛行機を持って工学部の流体科学研究室を訪れた。生徒たちは、「なぜ飛行機は飛ぶのか?」、「より遠くへ飛ぶ飛行機の羽根の大きさや傾きは?」、「バルサ材以外の軽量の材料はあるのか?」、「羽根にはどんな力が働くのか?」など、次々と教官に質問していた。

また、「揚力」「ローリング」「主翼」「垂直尾翼」など、初めて聞く言葉に戸惑いながら、熱心にメモを取って学習した。



人間機械工学科松井良雄教官から説明を受ける中学生

### お知らせ

平成12年度第2回金沢大学フォーラム

特別講演 「教員養成系学部の当面する諸問題について」  
文部省高等教育局大学課教育大学室長 石井 稔氏  
日時・場所：12月5日(火)15時・事務局大会議室

## 理学部ウォークラリー

秋空のもと、気持ちよい汗 秋を満喫

10月21日、理学部のレクリエーション行事としては初の「ウォークラリー」が開催された。理学部教職員と幼児・児童を含むその家族、外国人教授など計51名が参加した。角間キャンパスから犀川峡の温泉まで、金沢市東部の丘陵地を3時間にわたって約11kmを歩いた。

温泉到着後は、露天風呂で汗を流し、夕食を共にしながら楽しくすごした。



金沢市俵町付近を歩く参加者

## 教育学部附属幼稚園

### 親子で「のびのびフェスティバル」

10月7日、秋の日差しを受けて、「のびのびフェスティバル」が行われた。一輪車乗り(写真)、お父さんとの二人三脚、忍者の修行、など、親も園児も楽しんでた。



## キャンパス点描

### 錦秋の通学路

若松から角間キャンパスへのケヤキ並木の錦秋。10年もたつと樹木も大きくなった。通勤通学時、気持ちを和らげてくれる。



この奥に角間キャンパスが広がる(11月4日撮影)

## 編 集 後 記

学長、副学長の能登臨海実験所視察に同行して能登の小木を訪れた。

学長、副学長にとって初めての訪問であり、笹山雄一 所長(理学部教授)から、臨海実験所の概要などについて説明を受けた。

施設の真下に開ける九十九湾は、対馬暖流と富山湾の固有冷水塊の影響を受け、南方系と北方系の両海洋生物がみられるなど、日本でも有数の臨海研究領域であるという。教育研究活動については、全国各地から学生が参加している公開臨海実習、地域住民を対象とした公開講座や勉強会、地元高等学校と共催の公開講演会など、臨海実験所が主体となって、精力的に行われている。

初めて知ることも多く、広報マンとして恥ずかしかつ

た。とりわけ印象的だったのは「実際に目で見て手で触る教育」を教育方針としていることである。笹山所長曰く、「生物はDNAの配列だけではわからない。生物そのものを見ておく必要がある。」とのこと。広報も同じだと思った。

実験船「あおさぎ」で九十九湾を周回した。豊かな自然、恵まれた研究環境…これらを、大学作りに活かさない手はないと思った。前日の冷たい雨が上がり、小木の海は快晴。湾のはるか遠く、富山湾の向うに立山連邦を望むことができた。

「理学部附属臨海実験所」…一度は訪れておきたい施設である。

(総務部企画広報室専門員 宮坂一雄)

平成12年11月24日発行  
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町  
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-6136  
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ〈愛称“KUPIS” (キューピーズ)〉  
(アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)」でもご覧いただけます。  
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール (E-mail) = [general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp](mailto:general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp) でも受け付けています。